

ふくしまの基礎を築く

技師 鈴木 桃子

所属：棚倉土木事務所 業務課

採用：平成25年度

学生時代の専攻：工学部 都市システム工学科



■福島県職員を志望したきっかけ

「福島の基礎を築く仕事がしたい」と思ったのが複数ある選択肢の中でこの職業を選んだ理由です。

私が大学3年の時の夏休みに、インターンシップで県北建設事務所にお世話になり、地域からの要望が具現化していく過程、そして東日本大震災による被害状況や復旧状況を現場視察や先輩職員の経験談を通して県土木職員の仕事に触れる機会を得ました。この時初めて、自分が今まで生活していた環境が‘地元福島のため’という熱い思いを抱く多くの人に支えられていたことを知り、最終的には私も福島の土台を支えるこの場で仕事がしたいと思い今の職に就きました。

■これまでの経歴

- ・平成25年度～ いわき建設事務所 道路課（道路改良工事の監督）
- ・平成28年度～ 棚倉土木事務所 業務課（道路や河川の維持管理）



■現在の仕事内容

私が所属している業務課は、供用している道路や河川の維持管理業務を主に行っています。その中で私は担当地区の道路・河川の維持管理及び管内のトンネルや橋梁の補修業務を行っています。

業務課の仕事は、おそらく土木の仕事の中で最も地域に近い位置にあり、利用者が安全に気持ちよく使用出来るように、日々パトロールや補修工事の監督業務を行っています。管理者としての責任感を持ちつつ、自らも一県民、利用者としての目でやりがいを感じながら業務にあたっています。

■印象に残っていること

自分が担当した全ての現場において当初の計画のまま竣工した工事は一つもなく、どの現場でも頭を悩ませたことを覚えています。

全く経験も知識も無い採用直後から、先輩職員の力を大いに借りつつ様々なことにチャレンジする機会を頂き、特に思い出深い現場は、福島の復興事業である、緊急輸送路に指定された幹線道路の改良工事に携われたことです。最後までやりきることが出来るだろうか？と不安になることもありましたが、その都度施工業者さんや先輩職員に力を貸して頂き、工事が竣工したときはやり遂げることが出来た達成感と、周りでサポートして頂いた方々に感謝の気持ちが込み上げました。



→担当した現場の竣工写真
(いわき石川線)

■仕事の魅力・やりがい

担当した現場が動き始めると、実際現場に入ってから分かる現場状況や、地元の方の声が新しい情報として次々に入ってきます。それらを更に現場に反映させ続け、竣工するまで多くの人の手で現場を育てていきます。正解や答えを見付けるのはとても難しいですが、一番の利用者である地元の方に喜んで頂いたときはとてもやりがいを感じます。

そのような一つ一つの仕事全てが、大きい意味で、福島を支え、そこで生活する自分や自分の家族を支えることに繋がり、この仕事の魅力であると感じます。

■未来の後輩へのメッセージ

自分が一生身を置く場としてどんな職業を選ばいいのか、そこでどんな仕事がしたいのか、人生においてとても大事な選択を短い期間で答えを出さなければならない不安や焦りがたくさんあると思います。私自身もまた経験が浅く、出来ないこと、分からないことがまだまだありますが、この職に就いて4年目に入った今感じていることは、「この場に身を置くことが出来て良かった」という思いです。

仕事である以上、辛い思いや苦しい思いをして頭を悩ませることも出てきます。そんなときに、相談に乗って新たな視点からアドバイスをくれる先輩職員や、話を聞いてくれる同僚がいます。

福島を支え、自らも成長できるこの仕事を一緒にやってみませんか。